

いまさら聞けないQ&A

# パーマネントコースって何？

村越 真

日本のオリエンテーリングの普及期に大活躍したパーマネントコース。最近の利用者が減少して、PC を利用したことのないオリエンティアも多い。あらためて、パーマネントコースを説明しよう

## アウトドアスポーツ界の 都営荒川線

三ノ輪橋から早稲田にいたる 12.2km (営業キロ)の都営荒川線は、都内に唯一残る路面電車である。専用軌道が多かったのが幸いして 1960 年から 70 年代の路面電車廃止の波にさらわれることなく、現代まで生き延びているレトロな存在である。

華やかなアウトドア界にあって、比較的地味なオリエンテーリング。その中でも全盛期の遺物のように残り続ける。それでも、本誌の PC レポートにみられるように、現在でも一部には根強い人気があり、一定の利用者がある都営荒川線のような存在、それがパーマネントコース(略して PC)である。

## PC とは？

パーマネントとは、英語の permanent の略、つまり「恒常的な」という意味である。他のスポーツと違ってオリエンテーリングでは、その大会ごとに地図やコースが作られコントロールが設置される。これに対して恒常的に設置されており、いつでも誰でもが使えるオリエンテーリングコース、それがもともとの PC の意味である。しかし、日本で PC と言った時には、JOA による公認コースをまずはイメージするのではないだろうか。

実際、パーマネントコースという考え方や実態は、多くの国にある。しかし、日本の公認 PC のようなシステムとその活用方法は日本独特のものだ。まずはその歴史をひもといてみよう。

## PC の歴史

PC の歴史は 1970 年にさか上る。その前年に日本は国際オリエンテーリング連盟へ

の加盟が認められ、本格的な普及活動が始まった。そして、1970 年 10 月には埼玉県元加治をはじめとする 3 カ所に日本初のパーマネントコースが設置された。翌 1971 年には指導員講習会も含めて 7 千万円の予算が総理府の事業として計上され、パーマネントコースも北海道、埼玉、東京、神奈川、大阪、兵庫、広島、福岡に 50 コース設置されることになった。さらに翌 1972 年にはやはり総理府の予算で 15 県 50 コースのコースが設置された。1977 年に発行された日本オリエンテーリング年鑑 76 年版の時点では全国 46 都道府県、つまり沖縄県を除くと、すべての都道府県に PC が整備され、コース数も 300 に達していた。

筆者も、オリエンテーリングを始めた 1974 年ごろには、休日になると PC を歩いたものだ。当時は大会の数も少なかったので、PC はオリエンテーリングへの欲求を満たしてくれる貴重な場であった。また多くの PC は現在オリエンテーリングが行われるような自然豊かな場所ではなく、郊外の里山に作られていたので、大会とは違った趣があった。オリエンテーリングのことは知っていたが、まだ大会には一度も出たことがなかった 1974 年の春に福岡で偶然 PC のポストを見て、ワクワクした覚えがある。

## 公認だけでない PC

現在 PC は全国に約 600 あると言われてはいるが、その正確な数は JOA でも把握していない。公認制度は採られているが、公認されていても、実際には廃止同然のコースもあるらしい。

公認の PC 以外にも、全国の公的野外活動施設が 1200 ほどあるが、その半分以上にオリエンテーリングのパーマネントコースがある。読者の方もたまたま出かけた野外活動施設で、固定式の PC コントロールを見て、「おー」と思った経験をお持ちの方がいるのではないだろうか。このこと自体、オリエンテーリングが野外活動としての定番として認知されていることの現れと言える。しかし、これらのコースの多くは、地図・コース両面とも旧態依然としていて、オリエンテーリングの普及というよりはむしろ阻害要因になっているのではないかと、10km のコースを歩かせる余裕のあるところは少ないし、長い距離を歩かされて、疲れて嫌

な思い出しか残らなかったという話も聞く。学校行事なので当然班活動だが、地図は白黒で読みにくく、班に 1 枚が当然だ。

公認コースも含めて、その利用のされ方を検証した上で、より多くの人に利用しやすく、オリエンテーリングの普及にもつながるコースのあり方を考えるべき時代に来ていると言えるだろう。

## 100 キロコンペ

PC と関連して忘れてならないのが、「100 キロコンペ」である。これは 1970 年に初めて PC が出来た時から展開されている事業であり、走破したパーマネントコースや大会を日本オリエンテーリング協会に届けると、コースに応じて走破距離が認定されるというものである。その距離が累計 100 キロを超えると、やはり申請によって盾等の賞品が贈られる、以後 100km ごとに盾が贈られる。

札所巡りやお遍路といった文化的伝統があるせいか、あるいは目標があると頑張るといって高度成長期の国民性に合致していたのか、100 キロコンペと PC はそれ以後大きな人気を博した。PC の設置が始まって 3 年後の 1973 年 9 月には 412 人が 100km を走破(当時のコースの多くは 1 コース 10km なので、ほぼ 10 コース)、20 人が 500km を走破していた。その 2 年半後の 1976 年 4 月には、100km 走破者は 2770 人に急上昇し、500km 以上も 310 人となった。中には広島県の豊原氏のように 3500km を走破しおえた愛好者もいた。当時の上位達成者を見ると、前 JOA 理事の石津湛氏、シルバーパワーのはしりとも言える小沢俊道(いずれも 2000km)、大泉金三郎氏(1300km)、1973 年度の第一回全日本チャンピオンである遠藤務氏(1000km)などの名前がみられる。

1970 年代から 80 年代にかけては PC 同様多くの愛好者が競って距離認定を受けていたが、ここ数年極端に利用数が落ちている。100 キロコンペも PC 同様、見直しの時期に来ていると言えそうである。

(村越 真)